

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイつばさ上佐鳥		
○保護者評価実施期間	2026年2月4日		～ 2026年2月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年2月4日		～ 2026年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・アットホームで第二の家のような空間。 ・職員間での情報共有を行い、支援計画に基づいた支援を実施している。 ・リフレッシュできる・安心して過ごせる場の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人に寄り添い、子どもが思っていることをくみ取れるよう真剣に向き合う。 ・日々の記録や打ち合わせを通じて、支援内容の共有を徹底している。 ・週に複数回通えることで、安心して過ごすことができる場所になっていると思われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・時には話を聞き入れたり、時には提案をしたりして考える幅を増やしていく。 ・定期的な振り返りの機会を設け、支援の質の向上を図っている。 ・より一層児童が安心して過ごせるよう、それぞれの特性に配慮した環境作りや支援の提供を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人一人に合った個別対応ができています。 ・保護者との連絡帳や面談を通じて、日常的に情報共有を行い、こどもの状況を丁寧に伝えている。 ・生活に役立つスキルを身に着ける場の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員で子どもたちを見守ったり、対応をしたりしている。 ・職員一人一人が子どもの特徴を知り、近況情報を共有しあっている。 ・活動内容やこどもの様子を具体的に記録し、保護者が安心できるよう分かりやすい説明を心がけている。 ・日常に取り入れ、繰り返し行える機会の提供。(自身の荷物や洋服を綺麗に整える、来所時に行うべきことを自ら行う、洗いのやごみ捨て、掃除など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有できる場を朝と帰りに設けてもよいと思う。 ・面談の機会や情報発信の方法を見直し、保護者との双方向のやり取りをより深めていく。 ・発達段階や特性に合わせ、より効果的な支援の方法を考える。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣が身につく。 ・職員間で情報共有を行い、こどもの状況に応じた支援チームで統一している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に過ごす中でその子にかけている生活習慣を見つけ、一人できることを増やしていけるよう職員同士共有したうえで声掛けを行っている。 ・日々の打ち合わせや記録を活用し、支援内容の振り返りと修正を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後職員が増えるため、より一層手厚く対応していく。 ・共有方法の見直し定期的な振り返りの機会を増やし、より質の高い支援体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の知識が欠けていることがある。 ・現在の取り組みを基盤としたさらなる発展に向けた検討の余地がある。 ・安定した支援の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での経験が浅いため。 ・研修への取り組みが少ない。 ・支援体制は整っているが、今後の環境変化や多様なニーズへの対応を見据えた検討は継続課題である。 ・マンパワーになっている部分が見られる。 ・落ち着いた対応できない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に積極的に取り組み、職員の知識を増やしていく。 ・現行の実践を活かしつつ、将来を見据えた体制の整備を段階的に進めていく。 ・業務内容の見える化。 ・計画的な仕事の割り振り。 ・支援方法や知識のシェアリング。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への取り組み。 ・地域や外部機関との連携が十分とはいえない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事をもっと取り入れていけたらよい。 ・日常業務が最優先であるため、外部機関との連携を体系的に進める体制が十分とはいえないことが要因である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日や長期休みでそれぞれの時期にあった行事を職員が協力し、分担しながら行っていけたらよい。 ・連携の目的を整理したうえで、参加可能な会議や情報交換の機会を計画的に確保していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の部屋、余暇活動の部屋、おやつ部屋など空間が分かれていないためトラブルに発展してしまうことが多々ある。 ・保護者支援の取り組みが日常的な連絡が中心となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間が分かれば、トラブルも減ると思うが、その分職員が必要になってしまう。 ・個別の相談対応は行っているが、体系的な支援機械の設定が十分とはいえないことが要因である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた物事が取り組める空間や活発に室内でも体を動かせる空間があるとよいと思う。今の環境でもその空間ができるよう職員同士その都度「今この部屋は宿題をしている子がいる」「体を動かす子は戸外に出よう」と共有しあっている。 ・保護者向けの情報提供方法を整理し、段階的に支援機会の充実を図っていく。